

雪印が
お奨めする
育成選抜品種の解説
赤クローバー・ハミドリ（葉みどり）

(一) 育成の目的

赤クローバーの作付面積の増大、作付頻度の高まるにつれて、銹病、炭疽病、菌核等の病害発生が甚だしく、収量、利用価値の低下を来しているので、耐病性品種を育成しようとした。

(二) 育成経過

北海道に定着した赤クローバー即ち在来種の個体群を材料として、母系選抜（型の濃厚化）を数代に亘って行ない、その後優良個体間交配を行なったものの集団種子に育った。

（昭和三十六年より発売開始）

(三) 特性概要（表参照）

(1) 開花期、中生の晩（在来種に比し一〇日晩く、アルタースエーデに比し約五日早い）

赤クローバー・ハミドリ特性概要表

(3) 炭疽病、銹病の発生地帯、または菌核

(四) 利用上の注意

(1) 伸長型の品種で、出来過ぎまたは刈選れによる倒伏も考えられるので早刈りにつとめること。

(2) 永続性（三〜四年利用）に富んでいるから一年利用よりも短年草地に用いること。



（写真 二年目秋の状態三区がハミドリ）

病による冬枯れの多い地帯では耐病性に富んでいるので本品種の利用が望ましい。



（写真 左より、ケンランド、ハミドリ、メジューム）

品 種 名	調 査 区 分		生 育 調 査			生 草 収 量			病 害		備 考		
	起 生 期	開 花 始 期	一 番 草 丈	二 番 草 丈	三 番 草 丈	一 年 目	二 年 目	三 年 目	合 計	同 上 割 合		銹 病	炭 疽 病
メデューム	五、四	六、三	七〇センチ	七〇センチ	七〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	1 畦幅五〇センチの条播
アルタースエーデ	五、四	六、三	八六・五〇センチ	七三・三〇センチ	八六・五〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	2 基肥、堆肥二、〇〇キ、硫酸二〇キ、過石二八キ、硫酸一〇キ
マシモナス	五、四	六、三	八六・五〇センチ	七三・三〇センチ	八六・五〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	3 追肥（二年以降）硫酸二〇キ、過石二八キ、硫酸一〇キ
ケンランド	五、四	六、三	七三・三〇センチ	六六・一〇センチ	七三・三〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	4 追肥（二年以降）硫酸二〇キ、過石二八キ、硫酸一〇キ
ユーゴスラビアン	五、四	六、三	七三・三〇センチ	六六・一〇センチ	七三・三〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	口を早春三分の二、夏三分の一に分施
在 米 種	五、四	六、三	六九・一〇センチ	六六・一〇センチ	六九・一〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	
ハミドリ	五、四	六、三	八六・一〇センチ	八六・一〇センチ	八六・一〇センチ	二、四三	四、二七	三、二六	九、九六	六六%	弱	弱	